

時代を 運ぶ仕事



エネルギープラント、最新工作機械、ヘリコプター、エレベーターなどなど。私たちが運ぶのは、ときに500トンを超える巨大な製品だ。工場に置かれた、というよりそびえ立った製品を見上げ気合いを入れる。さあ、仕事に取りかかろう。梱包された製品の向かう先は、アジア、アメリカ、ヨーロッパ。大海原を超え、日本のモノづくりを世界に輸出する私たちの責任は重い。もし、輸送中に製品が壊れたら、期日通りに目的地に届かなかつたら。その製品づくりにかけたお客様の想いを裏切ることになってしまう。到着を心待ちにしている、世界中の人々を裏切ることになってしまう。だからこそ、無事に届けられたときの達成感も規格外なんだ。大げさかもしれないけれど、新しい時代を運んでいるとさえ思っている。スケールのかい仕事はきっと、きみを今よりもっとでかい人にしてくれる。次の時代を、きみが動かせ。

世界最大の軍用機。 見たことあるかい？

航空機にのらない大きな貨物は、ふつう、船で海上輸送される。しかし、海上輸送じゃ納期に間に合わない緊急事態も、稀にたが起る。どうするか？以前、アントノフと呼ばれる世界最大の軍用貨物輸送機を使って空輸したことがあった。人工衛星や電車でまるごと運べる巨大飛行機アントノフは、開発国のウクライナ語で「夢」を意味する。文字通り、多くの人の夢を空へと舞いあがった。



ニュースになる前の、 経済ニュースを知っている。

営業職が相手するのは大企業のグローバル戦略を担う人々。打合せでは、こんな会話が変わる。「今度、アジアに新工場を出すんだけど」「アフリカへのプラント輸出プロジェクトの進捗は？」世の中にニュースとして出てくるのは、プロジェクトが動き出して、しばらく経った後。時代の最先端は、新聞でもテレビのニュースでもなく、現場にあるんだ。



国家資格は大事だ。 人格はもっと大事な。

通関士、工業包装技師、梱包管理士、国際複合輸送士etc…。様々な資格取得者がシンコーにはいるけれど、資格より大事なものは、その人の人格。自分は、仲間と頼りにされる人間か。クライアントの信頼を勝ち取る誠実さと責任感はあるか。資格にあぐらをかくのではなく、自分自身に常に問いかけている。



頭にヘルメット、 足元はタイトスカートで、 港を駆け抜ける女。

男性も女性も関係ない。みなイキイキと働いている。爪にキレイなマニキュアを塗って、フォーグリフトを駆使する女性作業員がれば、スカートをはいてヘルメットをかぶり現場を駆け回る女性営業職もいる。物流業界は男の仕事場。もし君が、そんな先入観を持っているとしたら、私たちの工場を見て目を丸くするに違いない。



大手メーカーのビジネスパートナー。 梱包現場のスタッフ。 港のおっちゃん。 みな、一筋縄ではいかない。

物流の仕事では、高いコミュニケーション能力が求められる。なぜか？それは、クライアントはもちろんのこと、現場で梱包するスタッフや、港で積み下ろしをする業者、ときには海外の現地スタッフなど、様々な人々と関わり合う仕事だから。君の指示の出し方ひとつで作業効率が変わる。梱包の精度も変わる。一人として同じ人間はない。当然、一筋縄ではいかない。ただ、心配しないであらう。製品を無事に届けたい思いはみんな同じ。ひとつのチームとして、多様な人々を巻き込んでいける。それがこの仕事の、醍醐味でもある。



当社の沿革を見ると、 日本の梱包技術の歴史が 見えてくる。

創業は、1941年。60年分の歴史と技術の蓄積はもちろんのこと、新技術に挑むことの面白さ、グローバル経済を動かす喜び、君にぜんぶ教えてあげよう。



いつも、 誰かの夢を運んでいる。

それは、メーカーのグローバル戦略を立案した、マーケティング担当の夢かもしれない。その製品を生み出した、開発担当の夢かもしれない。あるいは、荷物の到着を待つ現地の人々の夢かもしれない。誰かの夢を運ぶ。生半かな覚悟で携わることはできないのだ。



私の二の腕は細いけど、 チームの絆は太いのよ。

一人じゃ1ミリも動かせないような大きな製品。梱包するにもたくさんの人手が必要となる。納期に間に合わないときには、何も言わなくても、誰かが手伝いに来てくれる。男性も女性も若手もベテランもみんな力を合わせる。そんなチームワークこそが、私たちシンコーの原動力。



香港競馬場の建屋の、 物流に携わりました。

香港の新しいランドマーク、香港競馬場。2004年に竣工されたこの建築物に使われた建築部材を、梱包・輸送手配したのが私たちシンコー。今までにない新たな意匠の建築部材の輸送には、実は、かなり特殊な梱包技術が使われている。今はまだ言えないけれど、君が入社した晩には包み隠さず伝えたい。



例えばこの荷物が止まると、 ある国の国家プロジェクトが 止まってしまう。

アジアに巨大なエネルギープラントを建てる。そんな、国家レベルの一大プロジェクトも、貨物が無事に届かなければ動かない。万が一、製品に破損があればスケジュールに遅れが生じてしまう。重たい責任が、私たちの仕事をより進化させてくれる。



お客様の魂が詰まった商品。 それをあずかる俺らが、 仕事に魂込めなくてどうする。

メイドインジャパン=信頼の証。世界に輸出される製品には、日本の技術者一人ひとりの魂が込められている。それがわかっているからこそ、梱包には全身全霊で取り組む。一ミリの隙もつけてなるものが、それが私たちのプライドであり、魂でもあるんだ。



君らの先生だ。

約束しよう。私たち全員が君らの先生になる。「何か、わからないことないか？」「不安なことないか？」おせっかいかもしれないけれど、みんなで君に話しかける。自分たちの先輩が、自分たちにそうしてくれたように。

